



# 日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

JANUARY 2021  
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 55 no. 1

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

## New Year Message

The period following the bursting of Japan's economic bubble in the early 1990s is often referred to as "The Lost Decade". I think that it's probably true that we would all call 2020 "the lost year" due to the effects of the pandemic on our businesses and our lives. It's amazing that a year which began with such promise quickly soured and left us all wondering how to cope.

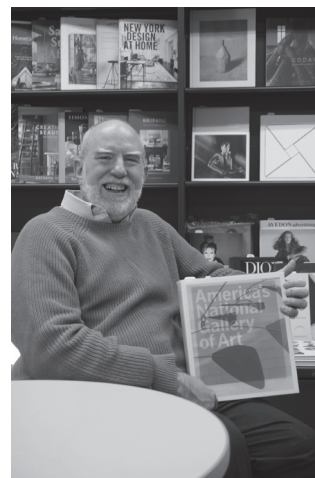
While Japan has been spared much of the contagion and subsequent loss of life that occurred in many other parts of the world, the effects of the virus have been strongly felt, nevertheless. All levels of schooling, from kindergarten through university, were closed for a long stretch of time—and for people in the business of selling to these institutions that closure was devastating. Public spaces such as museums and galleries were also shut down and, again, we felt the effects. Visits to customers even just across the same city were curtailed, to say nothing of longer business trips to Kansai, Tohoku, Hokkaido and other places. Perhaps the most disappointing thing for me was the cancellation of the Frankfurt Book Fair—for 25 years it has been the highlight of my business year. Although I don't know for sure, I suspect that "book fairs" will all take on a new form when/if they resume. I'm also not sure that I or anyone else will ever fully become used to many Zoom or Teams video meetings each week but it has proven to be an effective way of staying in touch and up-to-date . . . and is much cheaper than the airfare to Europe!

Some markets for print books (or at least some publishers of print books) have reported increased

sales during the pandemic rather than a loss of sales. The evidence seems to suggest that when people are locked-down (a different nuance than "locked-up") they will not only binge-watch TV but will also take joy in reading. I don't know how Japan has responded to this trend . . . maybe Japanese publishers have been blessed with more sales to people who have decided to stay home. Certainly it's not the case with printed academic books.

I think that the lesson is, as always, that we need to be flexible and find ways to change and adapt our businesses for the better. The world moves around us at ever-faster speeds, whether it's the result of a pandemic or some leap in technology. It's hard to "be ready" for any of it but I think it's less difficult to make the effort to think and respond with speed and agility if we have the right attitude and accept that "change" is both inevitable and often good. We'll be seeing some changes in JAIP in 2021 and I hope that we all can greet these with a positive and cooperative spirit that makes our organization stronger and sustainable.

Mark Gresham



Happy New Year.

## 理事会報告

2020年10月29日(木) 16時 HMH社にて

出席者 グレシャム、河村、山川、阿部、平野(総務委員長)、  
正田(事務局) 以上敬称略

### 1. 9月の予算進捗状況

ダイレクトリーの広告収入が予算を上回った。

年会費の未収あり、5社に近々にリマインドする。

### 2. 今後の協会の在り方について、9月17日の総務委員会報告を平野氏より説明

・正会員の会費モデルについて、会員数を伸ばすため、0円或いは1万円の選択について協議し、本理事会にて1万円で理事会案として決定する。

・会費の用途について、①協会HPの維持、②賀詞交換会の補助のみとし、次年度に繰り越さないようにする。サマーパーティーを含めた他のイベントは都度実費で行う。

・会報は郵便費用を出さないようHPとWeb上とする。幹事会社を数社〜10社程度にし、持ち回りで主幹事、副幹事を務める。

・個人として参加したい、楽しみたい人に情報が届くことが大事。

### 3. 委員会報告

・総務委員会 上記の通り報告。小松崎氏、細谷氏、鶴(竜次)氏に意見を聞く(グレシャム、河村、正田氏)

・メディア・広報委員会 コロナの影響で特段ないため会報の休刊が続いている。来年1月の紙の会報は見送ることに。

・文化・厚生委員 8月7日にZoom飲み会で今後のイベントについて話をしたが、コロナのため、具体的案は出ず。

1月の賀詞交換会についてはコロナの影響で中止とする。

・事業委員会 10月30日〜31日、東京古書会館にて洋書まつりに参加(丸善雄松堂、三善)。

### 4. その他

正田氏より、13年前に購入した協会のパソコンが壊れたので、今年度の予備費から購入したい。→承認

2020年12月22日(火) 16時 出版クラブ402号室にて

出席者 グレシャム、山川、松村、阿部、平野(総務委員長)、  
正田(事務局)、河村(議事録作成) 以上敬称略

### 1. 予算進捗状況

11月の支出は理事会及び総務委員会のお茶代のみで1,083円。コロナ禍で活動が停滞しており、予算以上の繰越金の発生が見込まれる。

### 2. 今後の協会の在り方討議(継続)

総務委員会が用意した新たな会則案(現在の定款から会則に名称も変更)に基づき討議を行う。

会則案と討議のポイントは以下のとおり。

(新しい協会の在り方に関わる説明会は2月19日に出版クラブにて開催を予定する。開催のアナウンスは1月初旬に行うが、会則案などの会員への開示は1月末を期限に準備する。)

・会の名称、目的の変更は行わないことを確認した。

・目的を達成するための事業に関して討議を行い、新たな協会の在り方が「理事会主導型から自由な自発的な会員主導型をめざす」、という主旨に基づき、「協会の目的を逸脱しない」限り、

すべての会員が主催者となり、自由にイベントを企画・実行できる、という内容とした。

・イベントの自由度はできるだけ高め、会員の不利益にならない限り、参加費設定も自由とするが、実施後には、会計報告を付した報告書の提出を義務付けることとした。

・協会の運営母体は、理事会を改め、幹事会とすること、代表幹事と副代表幹事を置き、1年交代の完全な輪番制で運営することを確認した。

・代表幹事の役割に関して議論を行い、1年の任期中、最低一度はイベント(賀詞交歓会を想定)を行うことと事務局(メーリングリストの管理を中心に最低限に止める)を担当すること、と定め、会則に明記することとした。副代表幹事は代表幹事を補佐するともに翌年に代表幹事を引き継ぐ。

・初期幹事メンバーは来年行われる最後の理事選挙の結果に基づき、一定の得票以上の法人を候補に選ぶ。22年度以降は、法人会員であれば、どこでも幹事に立候補可能として、幹事会メンバーの賛成多数で加わることができる。

・法人会員の会費は1万円、個人会員の会費はなし。会の主旨に賛同する法人や個人は誰でも入会できるが、法人会員のみ現在の法人会員1社の推薦が必要。

・会費は、ホームページの維持費用と若干の事務局経費を除き、年1回のイベントへの法人会員所属員の参加費用補助に充てて、原則繰越を行わない、ことを明記する。

・なお、この会則は、21年5月の総会で議決するが、施行は22年の4月1日を予定する。

更に、関連して現在の特別会計にある財産(約526万円)の処分などについて、話し合った。

・来年度の協会運営は、選挙結果による新しい理事会の承認も含めて、現在の定款に則って行う方向性を確認した。

・財産の処分に関しては、来年度の会費の徴収を一切停止することを前提に検討を進めるが、手続きは、定款変更ではなく、総会決議事項である予算案の中で会員に提案する方向で考える。

・今年度も予算以上の繰越が想定されるので、次年度予算案で更に余剰が発生する場合は、新しい在り方のイベント費用(賀詞交歓会)に充てる方向で検討する。

・具体的には、法人会員の会費1万円の徴収は開始する一方で、年1回のイベント(賀詞交歓会)の参加費用は、法人会員からの参加者若干名とすべての個人会員に関して無償とすることで、個人会員の拡大に努めたい。

### 3. 委員会報告

・メディア・広報から新年にあたり、会報を発行予定であることが報告された。

・文化・厚生員会から、実験的な意味も込めて、オンライン飲み会を開催したいことが報告された。参加者は8名であった。

### 4. その他

サンメディア社から退会届が出され、理事会で承認された。

### 5. 次回の予定

1月には2月19日の説明会の準備を進めるが、メールなどの連絡ベースで行うことを確認した。理事会の日程は別途調整する。

## 洋書まつりレポート

2020年10月30日(金)・31日(土)の2日間、東京古書会館で行われた、「第53回洋書まつり」に出展しました。

例年出展している「神保町ブックフェスティバル」については、新型コロナウイルスの情勢を鑑みて、実行委員会が7月末に早々に中止を決めたため、今年度事業委員会の出番はゼロになってしまうのではないかと心配しておりました。

その後、東京都古書籍商業協同組合(東京古書組合)の決定待ちとなり、判断に迷う情勢が続きましたが、10月初めに「マスクの着用・検温・連絡先を記帳」というコロナ対策をすることで、30年を超える歴史を持つ、洋書専門のバーゲンセールは開催の運びとなりました。

古書組合からは7社、JAIPからは三善・丸善雄松堂の2社、それぞれ対前年1社ずつ減の計9社での参加となりました。

例年は会場内にレジがありました。今回は前のイベントの状態がそのまま残されており、会場に入る前の場所に記帳・検温コーナー及び感染対策用のビニールシートを施したレジが、またお客さまが選書された商品を吟味するためのテーブルもいつもの会場中央から入場後すぐ右に椅子の数を減らして設けられました。

初日の来場者はおおよそ330名とのことでした。

なぜそれが分かったのかと言うと、来場者に連絡先の記帳をお願いしているからです。昨年までは特にカウントしていないため、この人数が多いのか少ないのかは判断の難しいところです。が、会場の混み具合は、例年とさほど変わらないとのことで、あまりコロナの影響はないだろうとの見解でした。

2日目も終日流れが途絶えることはありませんでした。昼休みに外に出て、神保町界隈が多くの人で賑わっていることに気づき、驚きました。

後でわかったのですが、神保町ブックフェスティバルや神田古本まつりが中止となったことを受け、白水社が企画して出展社を募り、「神保町ブックフリマ」が開催されたそうです。出版社の社屋や神保町の街角、オンライン販売などでそれぞれに読者謝恩企画を実施、多くの動員があったようです。

加えて好天に誘われて、街に出る人々が増えたということもあったようです。

他の即売展では、記帳や検温にクレームが出ることもあったとも聞きますが、ここではほぼ好意にご対応いただけたこともとても助かりました。

運営については、出展各社が会計等の業務を分担し、スリップで売上集計を行いました。

古書組合からは、「洋書まつりに限って言えば、去年からその兆しは見えております。それは洋書協会メンバーの参加を得たことによると思っています。」(河野書店NEWSより)と我々とのコラボを一定評していただけましたようです。

肝心の売上ですが、全体で見ると昨年を下回ったそうです。

その中でも開催を強く希望された3軒の古書店とJAIPの2社は、前年より売上を伸ばすことができました(昨年は3社計で約25万、今回は2社計で約22万)。

この結果にはいろいろな評価があると思いますが、根気よく続けて出展することで実績を積み上げていければと思います。

また、悪天の心配をせずに済む屋内催事のありがたさを痛感した次第です。

コロナの今後など誰も知る由もありませんが、2021年は神保町ブックフェスティバルの復活を願ってやみません。

河野書店をはじめ東京古書組合の各社には今回も大変お世話になり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。(文中敬称略) (丸善雄松堂株式会社 石谷 清)





## Web商談会レポート 「書店向けWeb商談会」に参加してみた

2020年は、年明けから新型コロナウイルスの感染拡大によって、日常生活やそれを支える経済活動が大きな制約を受け、かつてないほどの経済不振の年となった。出版業界も例外ではなく休業や時短営業を余儀なくされ、そのなかで廃業を余儀なくされる書店も数多く出た。売上も年の後半復調傾向にあったとはいえ前年比でマイナスであったことは指摘するまでもない。そんな未曾有の状況のなか、前向きな話題と言えば2020年6月と10月に行われた「書店向けWeb商談会」ではなかっただろうか。

このイベントは、パイ・インターナショナルの三芳寛専社長が中心となり、児童書や美術書、実用書の版元集まり、広告代理店のとうこうあいの協力を得ながら生まれた新しいスタイルの書籍商談会だ。そもそもはJPIC（一般財団法人出版文化産業振興財団）が毎年行ってきた商談会がコロナ禍で開催できなくなったことから、代替の商談会として企画された。ただ、同時にこれまでの業界の枠組みを超えたオープンなプラットフォームの商談会としても企画され、洋書からはタトル出版とアシェット・ジャポントが参加することとなった。

この商談会は、基本すべてがオンライン上で行われた。参加した版元は開催期間中に商談スケジュールをネットに公開し（Calendlyを使用）、書店からのアポの申し込みを待つ。アポが入ればオンライン会議アプリZoomで商談を行う。もちろん待っているだけで書店からの申し込みがあるわけではないので、版元、参加書店から提供を受けた連絡先に積極的にコンタクトをしてアポをとる、いわゆる「プッシュ型営業」も行った。開催期間中は、オンラインのイベントも行われ、著者のトークショーや書店員による棚づくりのレクチャーなどが行われた。

結果はどうだったかという、10月に行われた商談会の報告書によれば参加版元は140社。玩具メーカーや取次などのサービス社9社が参加。合計で全149社の参加となった。一方の参加書店はというと235名の書店員の参加があった。その内訳は、地方のTSUTAYA書店や明文堂といったチェーン店が見られたほか、紀伊国屋書店クアラルンプール店などもあり、傾向としては地方の書店の参加が顕著だった。開催期間中の売上は2000万をちょっと超える程度で、少し残念なのは、半分近い版元が売り上げが10万円未満であったということ、0というところも44社あったことだ。洋書組も両社とも0であった（6月開催時）。

問題点はいろいろとあるだろう。書店員が参加する場合、店舗に自由に使える端末がない場合や、あっても使う時間

がないなど困難があり、参加がかなわないということがあった。一方の版元側でも、大手版元の参加が少ないなど集客力に欠けた点などが挙げられる。結果的に見れば意識が高く、IT技術などに習熟している地方の書店にしてみれば、仕入れの幅を広げる絶好の機会だったかもしれないが、大手書店チェーンやそもそも取次傘下の書店などにとってみればそこまでのメリットを見出しうるイベントではなかったと言える。時宜を得た企画であり、新しい一歩ではあったがまだまだ試行錯誤は必要そうだ。

さて、私は今回の商談会に実行委員の1人として関わった。その立場から言わせていただくと、あらゆる点で今後のこうしたイベントの運営のあり方に関しては示唆的であった。まずスピード感。実行委員が組織されてから3ヶ月でゼロからの準備で実施に至った。そこには当然ながら現在考えられる最良のIT技術の活用があった。打ち合わせは当然ながらすべてがZoomで行われ、実行委員の打ち合わせのほか参加版元への説明会もオンラインで行われた。以前よりも効率のよい打ち合わせになったことは間違いない。スピード感を実現した助けの要は、おそらくWebページのプラットフォームWix.comの存在だろう。最初にページを立ち上げるまでに1ヶ月とかからなかった。それだけではないコミュニケーションの管理をslack上で行うことで効率化も図ったし、思いつくかぎり、流行りのツールをとことん取り入れた運営となっていたことは注目に値する。

また、商談数や売上については結果的にはまだまだリアル商談会に匹敵するものではないにしても、物理的な距離を越えて商談が可能になった点、あるいは、団体や業界の枠を越えて本という商材を中心に組織されたという点については大いに評価すべきだろう。今回、洋書側からの参加となったが、そもそも和書とならんで洋書が参加できる商談会というのがこれまでにあっただろうか。

すでに本屋でだけ本を販売するわけではなく、本屋も本を売るだけではないことは浸透しつつあるが、さらには様々な商材と同様に本が扱われ、くだもの横に本が置かれるような時がくるのかもしれない。そんなときに広く商品をアピールでき、さまざまなジャンルのさまざまな本を扱える商談会のようなものが役立つ時がくるのかもしれない。そう思うと、こうして実現された一歩先の社会を見据えた企画には可能性を感じた。

（アシェット・ジャポント 山田仁）

# Zoom Meeting

## 文化厚生委員会オンライン会議

新型コロナウイルスの影響で、昨年予定していた文化厚生委員会主催のイベントが全てキャンセルになった事は記憶に新しいところです。ボーリング大会や懇親会は、最近の状況では開催は難しいのが現状です。

しかし、「何もしないでいるよりは、何かやった方がいい」と文化厚生委員の間で持ち上がり、ZOOM（ズーム）を使ってオンライン懇親会兼オンライン会議を、昨年11月13日（金）21:00～24:00に開催しました。

在宅ワークが普及し、日頃 ZOOM や Skype を使ったオンライン会議が一般的となりました。JAIP のイベントでも、ZOOM を活用して何かできないか?と各委員より話が持ち上がり、ZOOM を通しての会議兼懇親会を行うことになりました。

当日の参加者は、阿部氏（三善）、山田氏（アシェット・ジャポン）、平野・旭氏（ユサコ）、鶴氏（東亜ブック）、遠藤氏（MHM）、高鷲氏（フランス図書）、倉上（タトル出版）の8名が参加しました。各自用意したお酒を片手に、序盤はお互いの近況報告を行い、コロナ禍の状況でどのような生活をしてきたかなど、久しぶりの交友を楽しみました。

そして話題は、「これからどのように文化厚生委員会主催のイベントを開いていくべきか?」となり、各メンバーより

いろいろなアイデアが持ち込まれました。ZOOM の特徴を生かした、何か皆が楽しめるイベントを開くべく、各々がアイデアを持ち寄りました。例えば、オンライン音楽鑑賞会、映画鑑賞会、テレビドラマ鑑賞会、ペットについて語る会、などのアイデアが上がり、いくつかの具体的な進行方法について議論をしました。

また、アフターコロナを見据えて、来年開催するイベントを、今までのボーリング大会に加え、ボルダリングやバーベキュー大会など、今までになかった種類のイベントも開催しても良いのではないかと、活発な意見が出てきました。また、農業体験など、メンバーの特技を生かしたイベントを開催する案もあがりました。

当初、懇親会比率が高くなると予想していましたが、殆どの時間を今後のイベントに関する議論に費やし、実際はオンライン会議になりました。

今後の課題は、20代、30代の若い会員の参加を促すべく、参加しやすい形態、費用もリーズナブルな企画が求められていると思います。今年も新型コロナの状況が予断を許さない状況ですが、今年は新しいかたちのイベントを開催できたらと思います。

（タトル出版 倉上 雄一）

## 海外ニュース

### 2020年最もヘンな書名大賞は A Dog Pissing at the Edge of a Path に決定

毎年 Bookseller と Diagram Group が選ぶ最もヘンな書名大賞であるが、University of Alberta の人類学教授である著者の Gregory Forth と、この本を出版した McGill-Queen University Press が、初のカナダからの受賞となった。

この賞の責任者である Horace Bent は、こう述べている。「2020年はカナダがたびたび注目された年でした。『シツ・クリーク』の世界的な成功（カナダのドラマシリーズ。エミー賞のコメディ部門すべての賞を受賞）、カナダ出身の俳優ライアン・レイノルズによるイングランド・ナショナルリーグ5部所属のレクサム FC の買取、そしてジャスティン・トルドー首相のロックダウン中のセクシーなひげなど。でも、A Dog Pissing at the Edge

of a Path は、このパンデミックの年のカナダで、まちがいくともっとも輝かしいニュースです。誤解を恐れずに言えば、七年戦争のエイブラム平原の戦いで、ウルフがモンカルムを破ったとき以来の歴史的快挙と言えるでしょう」

この本は、東インドネシア諸島で用いられている動物にかんする比喩やことわざを包括的に研究したものである。書名は、犬が散歩中にたびたびおしっこをひっかけけるマーキングになぞらえて、なにかしているとしょっちゅう邪魔がはいることのとたとえて用いられる慣用語。

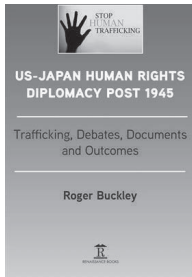
（The Bookseller Online, November 27, 2020より適宜抄訳）

情報提供：MHM 遠藤尚子



RENAISSANCE BOOKS

## New and Forthcoming Books



ISBN:978-1-912961-12-2  
Hardback 750 pp  
February 2021 £225.00

戦後の日米人権外交 全2巻

### US-Japan Human Rights Diplomacy Post 1945. 2 vols.

Trafficking, Debates, Outcomes and Documents

Roger Buckley

This is a pioneering study of a worsening human rights issue, supported by documentary evidence (Part I) with Part II providing an extensive collection of primary sources, including international covenants, US Trafficking In Persons and Congressional reports, and Japanese government papers. The author describes and assesses how the United States, post-1945, has deployed public diplomacy to lead the global fight against sexual and labour trafficking. In particular, it traces how the US has named and shamed its key ally Japan to improve its human rights performance as measured by US annual listings of trafficking activity. Japan's belated attainment of Tier One ranking suggests that the US in some circumstances has been able to succeed in its declared 'war' on domestic and international trafficking.

イザベラ・バード著・金坂清則（京都大学名誉教授）解説  
簡約版『日本奥地紀行』注釈付

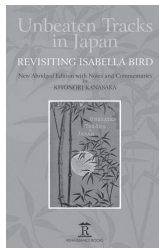
### Unbeaten Tracks in Japan

Revisiting Isabella Bird. new abridged ed

Isabella Bird

Kiyonori Kanasaka (notes & commentaries)

Isabella Bird's best-selling book on Japan is republished here, but with a difference: for the first time, it is now fully annotated



with supporting commentaries, providing the twenty-first century reader with an enhanced informed view of the new 'modern Japan' as Bird experienced it in 1878.

This volume is the original 1885 edition. It is not a facsimile, but has been reprocessed digitally to enable the

annotations to be inserted, as well as the 40 copperplate illustrations to be restored to their original quality.

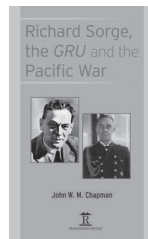
ISBN: 978-1-898823-79-7 Hardback 400 p.  
March 2020 £55.00

ゾルゲ、ロシア連邦軍参謀本部情報部、太平洋戦争

### Richard Sorge, the GRU and the Pacific War

John W.M. Chapman

Sorge's activities between 1930 and 1942 have tended to be lauded as those of a superlative human intelligence operator and the Soviet Union's GRU (Soviet military intelligence unit) as the optimum of spy-masters. Although it was unusual for a great deal of inside knowledge to be obtained from the



Japanese side, most attention has always been paid on the German side to the roles played by representatives of the German Army in Japan. This book, supported by extensive notes and a bibliography, by contrast, highlights the friendly relations between Sorge and Paul Wenneker, German naval attaché in Japan from 1932

to 1937 and 1940-45.

ISBN: 978-1-912961-09-2 Hardback 144 p.  
November 2020 £55.00



1-1-13-4F Kanda Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

Tel: 03-3518-9181 Fax: 03-3518-9523

\* JAIP 会報2020年8・11月号は、新型コロナウイルスの影響で休刊いたしました。例年行われていた各種行事やイベントの中止により、今後も会報を休刊することがございます。申し訳ございませんが、あらかじめご了承くださいませようようお願い申し上げます。

日本洋書協会会報 vol.55 No.1(通算565号) 発行日2021年1月25日 編集者 遠藤 尚子

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523  
URL: <http://www.jaip.jp> E-mail: [office@jaip.jp](mailto:office@jaip.jp)